



『国民日報』 2013年2月17日付記事

「東日本大震災で福音の扉が開く」

韓国福音主義協議会（韓福協） 2月発表会で日本牧師告白

“東日本大震災が起きた後、伝道の扉が開いています。”

近藤愛哉（日本盛岡聖書バプテスト教会）牧師の告白である。彼の働き場である岩手県のクリスチャンの割合は0.05%。全国でもキリスト人が一番小さい田舎の地域ですが2011年3月11日東日本大震災が村を襲った後奇跡的に福音の門が開いている。

去る15日、「韓国福音主義協議会」の2月発表会がソウル・セムナン教会で開催された。東日本大震災2周年を前に、30名ほどの日本の牧会者たちが参加した。彼らは大震災発生後の現地宣教状況を報告し、その間献金や支援活動をしてきた韓国の教会に感謝を表した。日・韓両国教会の交流や協力方案に対し論議も続いた。

特に“沢山の国内外のクリスチャンたちが短期奉仕などの形式で地域を訪問し被害地域の住民たちに対して助けを今までの続いている”“このような仕えの活動が現地の住民たちの伝道として実を結んでいる。”と伝えた。日本福音同盟副理事長である中台孝雄牧師は“2年が過ぎた今までも災難現場の復興は中々進まない状態”であることを報告し、“特に福島原発事故で被害を受けた住民たちのために祈ってください”と要請した。

韓福協の国際委員長であるアンミンズ平和教会牧師は“日・韓教会交流及び協力”を主題とした発題で“日・韓両国教会は東日本大震災の時のようにアジア地域の災難現場にも一緒に働ける”と語り、“それだけではなく北朝鮮の住民助けと北朝鮮の福音化働きにもお互いに力を合わせる事が出来る”と話した。韓福協副会長である李ジョンイク新村バプテスト教会牧師は、日・韓教会の定期的な交流を強調した。

韓福協の役員である金サンボク牧師は歓迎辞を述べ、“韓国と日本の政治と歴史は私たちが別れさせたのだがイエス・キリストは私たちを一つにした”と語り、両国の教会の持続的な交流と協力をお願いした。



『アイクットNEWS』2013年2月18日付記事

“すっきりとした歴史の精算を目指し、日・韓教会の協力が必要”

韓福協・日本福音同盟、教会交流及び協力増進ため月例発表会開催

韓国と日本両国の教会がキリストの愛の中で一つになって協力する方案に対して話し合う時間を持った。

日本福音同盟の要請で開催された今回の発表会には日本人牧会者及び韓福協関係者200余名が参席した中で進行した。

李ジョンイック牧師は“両国の基督教が二つの国を超えてアジアに行くためには過去史に対するすっきりした精算が必要である。”と強調した。

彼はそれを元に・定期的な交流・交流パートナーシップの拡大・災難の時、両国の協力などを提示した。



『基督韓国新聞』 2013年2月20日付記事

定期的な交流を通じてパートナーシップが切実
韓国福音主義協議会、日・韓教会交流増進模索

“韓福協と定期的な交流を通じて関係増進する事を提案”
指導者たちの円滑な協力を通じて効果的な宣教の働きを果たす

日本教会と韓国教会が定期的な交流を通じてパートナーシップを持つ時、共同体を持つ事が出来る、との主張が、この協議会で提議された。韓国国内牧会者だけではなく、日本福音同盟の責任者及び関係者24名が参席したこの協議会において、両国の牧師たちはお互いに共感を分かち合った。

初めの発題者である中台牧師は東日本大災難のために韓国教会の積極的な支援に対する感謝と現在日本の状況、福島原子力発電所爆発事故問題に対する長期的な祈祷の要請など三つを忠実に発表した。

二番目の発題者である李ジョンイク牧師は、日韓基督教の間活発な交流や増進のため具体的な代案として定例的な交流と交流のパートナーシップ、お互い難しい時助け合う、提案を提示した。

三番目の発題者である木田牧師は、原発後両極化になる現実を指摘して、教会が一つになった事を祝福として明かし、続けて福島教会の働きを覚え祈りして欲しい、と要請した。

四番目の発題者である安ミンス牧師は、アジアの日本・韓国・中国3カ国の中先ず日本と韓国の教会指導者たちが定期的に集まりキリストの中で交際しアジア福音化のため協力の道を模索しなければならないと訴えた。

発表会前に捧げた礼拝には李ヨンフン牧師の“誠の弟子の道”を持って説教し、金ソンヒョンとゼンビョンクム牧師は日・韓教会の霊的覚醒と悔い改め運動のため、日・韓教会の交流と協力増進のためにお祈りをした。



『基督教改革新報』 2013年2月19日付記事

韓国福音協議会（韓福協）、“日・韓教会交流と協力増進”発表会

“世界宣教・災難など日・韓教会協力を”

『基督教聖潔新聞』 2013年2月19日付記事

“韓国教会の関心と愛が大きな力になった”

『DIGITAL聖潔』 2013年2月20日付記事

韓福協、“日・韓教会交流・協力増進”発表



『NEWS POWER NP』2013年3月4日付記事

“日・韓教会交流、必ず実現出来るように”

日本東北ヘルプ川上直哉牧師、金ミョンヒョク牧師の手紙

川上直哉牧師が金ミョンヒョク牧師に送った手紙には、以下のように綴られていた。

金ミョンヒョク先生

レントの季節、主の足取りをたどりつつ、ご挨拶をお送りいたします

先日は、素晴らしいツアーに参加させていただきました。先生の御尽力と祈りの賜物と、神様の御名を、喜びつつ称えています。それはまさに、復活の先取りです。

特に今回、先生の存在は、私にとって大きな学びであり、また励ましとなりました。その感謝を申し上げるために、趙先生のお力をお借りし、メールを差し上げました。ご無礼の段は、どうぞお許しを賜りますよう、お願い申し上げます。

私は今、思わぬ形で、被災地の牧師の連絡調整係を担っています。それは、能力の貧しい私にとっては大きすぎる課題です。しかし、神様がくださいました任務です。今日まで、何度も挫折しかけました。しかし、その度に必要な学びと励ましを神様がくださいました。今回も、まさにその通りだったのです。

私たちは、震災直後から、何度も深い悲しみと恥の中に落とされました。独島の問題と、慰安婦の問題です。私たちの首相やオピニオンリーダーたちは、本当に愚かであると思いました。韓国から本当に多くの祈りと愛を頂いていた最中で、歴史も恥も知らない発言が、私たちの国や代表者の名前で飛び出しました。そのことを、私たちは深く恥じました。そして悲しみ、祈ってきたのです。どうしたらよいのか、神様に問い続けました。

ですから私は、セムナン教会での李ジョンイク先生がしてくださった発題を、大きなチャレンジと思って聞き、感動しました。

李ジョンイク先生は、これまでの私たちの「お詫び」が儀礼的なものであったのではないかと問われました。李先生は、チャレンジをしてくださったのです。敢えて慰安婦のことを語り、被災地だけに傾注していることが許されないことを、はっきりと語ってくださいました。

私は、その言葉に奮い立ちました。先生、どうぞ、李ジョンイク先生にお会いになることがありましたら、私の感謝をお伝えください。私は本当に感動したのです。李ジョンイクは、本気で、私たちに向き合い、友情の構築を呼びかけてくださいました。これは、大きな恵みであり、励ましでした。

私は、その呼びかけに応えたいと思いました。若い私たちは、勇気をもってこれまでの歩

みを乗り越えることが求められているはずです。それは私たちの務めだと思います。私たちの先輩の大きな努力にもかかわらず、なぜ、このような状態にとどまっているのか。苦しくてもその原因を見出し、チャレンジしたい。私は、発題において、そう申し上げました。

この私の発言は、真剣で真実なものでありました。しかし実は、それだけでは足りなかったのです。そのことを教えて下さったのは、金ミョンヒョク先生でした。

私たちは、これまでの歩みを批判し乗り越えることだけではとても足りない。先輩からまだまだ学ばなければならない。チャレンジしなければならないが、それは、学びながらしなければならない。それはとても難しいことである。しかし、学びつつチャレンジすることがどうしても必要なのだ。そのことを、先生は本当によく教えて下さいました。先生の忍耐と後輩への愛を、強く感じました。感謝に堪えません。

先生が案内して下さいました一つ一つの場所は、私たちすべてにとって、本当に大きな学びの機会となりました。私たちはそれぞれ、書物等で丁寧に学んできました。しかし、現地に行くことの大切さは、現地に行かねばわかりません。私たちは皆東北の牧師です。田舎の牧師です。被災でもしなければ韓国に行くこともかなわないような、貧しい小さな牧師です。しかし、神様は不思議な仕方です、私たちに、特別な機会を下さいました私たちは、書物ではわからない事柄を豊かに教えて頂きました。恵みの主の御名を称えてやみません。

そして更に、その学びの中で先生が繰り返して語って下さったことが、私たちの大きな励みとなりました。先生は、「一言もクリスチャンになれと言わなくても、愛の奉仕を続けていけば、教会が出来上がる」とおっしゃいました。そしてその実績を示し、神様の業を証して下さいました。それは、今、被災地で励む一人一人の牧師を、大きく励ましたのです。

被災地の牧師は、もう、疲れ始めています。2年間、本当に、被災地域に仕えました。しかし、その働きに強い批判があるのです。なぜ、教会に人を引っ張ってこないのか。なぜ、強く人々に迫らないのか。「こんなに上げてあげたのだから」と、そろそろ見返りを求めなさい・・・本当に、そうした批判が強くあるのです。

しかし、私たちは先生に励まされました。先生が教えて下さったとおり、韓国の過去の歩みには、やはり同じような苦勞と傷みがあったと、そのことを知らされたからです。そうした中で、趙泳相牧師が「presence evangelize」と言って下さいました。それが、韓国教会の始まりであったし、命であったと、私たちは知らされました。私たちは本当に励まされたのでした。

そして、先生がおられます。ご自身、韓国の伝統を体現され、エキキュメニカルな働きの中でよき業に邁進し、福音を伝え続けて今日を迎えられました。そして、ご父君を殉教の中に亡くされた現実があります。私たちは、奮い立ちました。

このツアーの中で、ある牧師は言いました。「私たちは、放射能の問題を巡って、殉教しなければならぬのではないか。」それは、殉教した先輩たちの存在に圧倒された発言だと思います。私たちは、奮い立ったのです。

先生の御尊父様が、東京神学社のご卒業であったことも、また違う形で、私たちを勇気づけました。ご存知の通り、東京神学社は日本基督教団の神学校です。日本基督教団は、今、大切な時を迎えています。1969年から、教団は暴力と混乱の中にありました。しかしそれは、昨年、収束しました。その先は、まだ見えません。それが、今の日本基督教団です。

日本のプロテスタント教会の半分が、日本基督教団です。日本基督教団のリバイバルなしには、教会のリバイバルはありません。昨日、東京神学社の卒業生が偉大な殉教者であったことが、一つの大きな励ましとして記憶されました。私はこのことを多くの友人に伝えたいと思います。私たちが、先輩に学ぶためにです。

そして、先生がバスの中で言ってくださった事柄が、未来に向けてとても大きなことと思えました。先生は、神学と宣教と奉仕のために、日韓で定期的な交流と学びと旅を始めようと呼びかけてくださいました。そして若い世代も、若い世代同士でそれを始めてはどうかと呼びかけてくださいました。

私たちは、その幻に感動しました。それが是非実現すればと願います。祈ってまいります。どうぞ、私たちにできること・すべきことがありましたら、ご指導くださいますようお願いいたします。

長いお手紙となってしまったことをお詫びいたします。今回の学びは、私の神学人生にとって重要なものとなりました。先生への感謝のためには、どんなにしても言葉が足りないように思います。お時間を頂きましたことを深くお詫びいたします。

また韓国に行くことがあるかと思えます。その時、是非、親しくまたお話をお聞かせいただければ妨害の幸いです。またお会いすることがあることを、心から願っております。

終わりに恐縮でございますが、困難な中に展開しておられる先生の尊いお働きがいよいよ祝されますよう、特にご健康が支えられますよう、お祈りいたします。

それでは失礼します。

感謝して

川上直哉

金ミョンヒョク牧師が川上直哉牧師に送った手紙

愛する直哉牧師先生様

こころの考えを真率に表現した大事な手紙をくださって、感動を受けながら読みました。未熟な人を通じて学びと励ましを受けたことはすべてが神様の恵みだと思います。心の考えと感じたことを真率に表現しお互いに話せることはすごく大事なことです。

聖書は手紙であり 通路です。これからもこのような文書をお互いに分かち合い日本教会と韓国教会が交流と協力の増進を願っております。

事実私は本来は日本も北朝鮮も嫌がった人です。でも少しずつ変わりました。日本教会との交流に前に立つことになり北朝鮮を助けることに前に立つことになりました。すべてが神様の恵みです。お互いに自分の意見と主張を立たせれば交流も協力も難しくなると思います。十字架を見上げ又見上げれば少しずつ変わっていくと思います。これから日本教会と韓国教会がお互いに足りない部分があまりにたくさんありますが、神様の哀れみと赦しと愛の中でもっと深く知り合いもっと幅広い交流と協力で進められることを願っております。

今日は簡単に私の考えの一部分を書きたいと思います。私は “人生鉄道” (seven ways of life) という言葉をよく使います。即ち人生は “旅人であり、出会いであり、分かち合える事であり、捨てる事と喜びで、むなしい事であり別れることだ” と話をよくします。ここではその説明は省略します。今直哉牧師先生の文を読み新しい内容の “人生鉄道” を考えてみます。今考えた内容を簡単に書いてみます。初めは、人生は出会いです。人生は神様の出会いとイエス様の出会いだと思います。アブラハムとダビデとイザヤとシモンとサウルが神様とイエス様に会った事に彼らの人生が新しく始めました。二番目は、人生は罪の告白であり悔い改める事です。人生は神様とイエス様に会った事で自分が呪われる罪人である事実を悟り泣きながら悔い改めます。三番目は、人生は恵みを受ける事です。信仰の先輩たちは皆泣きながら罪を告白し悔い改める時神様から驚きの恵みを受けました。四番目は、人生は変わる事です。罪人の人生は神様に会い罪を悔い改め恵みを受ける事で知正義の生と運命が変わり始めます。利己的や利他的で恨みや不平が感謝と喜びで、怒りと憎悪が許しと愛で変化され始めます。五つ目は、誠の人生は主に仕え主を愛する事です。誠の人生は自分に使え、富貴栄華に使えから、ただ主に仕え主の愛に変わり変化される事です。真心を持って主だけに仕え、愛する事が誠の人生です。六番目は、誠の人生は隣人に使え、隣人を愛する事です。ここで隣人は同族の事は勿論、異邦人も含めニヌウェやローマのような罪人たちと敵たちも含まれます。七番目は、誠の人生は生け贄になる生を暮らし生け贄になり死んでいく事です。これは主の生と死の姿であり、ステパン執事の生と死の姿であって使徒パウルの生と死の姿で、1866年朝鮮大東江で殉教の血を流したロバートチョメントマス宣教師の生と死の姿でした。

未熟で足りない罪人である私もこのような七つの姿の生を生きて死ぬことを希望しております。私が2011年3月29日書いた “私の願いと祈り” という部分をここに添付し、



この文を終わらせます。神様の恵みと愛と祝福が川上直哉牧師先生と家庭と仕える教会の働きの上にそして日本教会と日本民たちの上に充満になれることをお祈りいたします。

2013年3月1日 金ミョンヒョク牧師

“父である神様、私は罪人の中の罪人です。私を憐れんでください。私のすべての罪悪を主の血潮で浄めてください。私は未熟で足りないものですが、主はごく小さい者たちと苦痛を受けている人々に強い関心を持ち訪ねて抱いてくださり助けて下さったように、私も小さい教会を訪ね慰めと励ましをの道を広げられるようにそして苦痛を受けている人々を下に慰めと励ましをの道を広げてくださいます！私は未熟で足りない者ですが、使徒パウロと主の弟子たちに見習いしてそしてジュキチヨル牧師先生とソンヤンウォンぼくしせんせいに見習い主が誰かのために特に苦痛を受けている北朝鮮同胞たちとモスラム兄弟たちのため生け贄になる生を生きて生け贄になる死をください。憎みと怒りと憎悪がある所に憐れみと許しと愛を埋めて分裂と葛藤と対決が在る所に和解と一致と平和を埋める小さい肥料と種になれるようにしてください。立派な説教や深刻な神学講義をする前に主が持てた憐れみの涙を持たせ、主が抱いた愛の心臓を持つようにして主が持てた死の痕を持つようにしてください！罪人の中の頭が主が流した血と殉教者たちが流した忠誠の血を頼りそして父である神様の無限な憐れみと慈悲と愛を便りながら主のみ名を持って祈ります。父である神様！ 韓国教と韓国百姓たちを憐れんでくださり北朝鮮同胞たちと日本民たちを憐れんでくださいます！ アーメン” (2011. 3. 29)

